



Hepatic relaxation times from postmortem MR imaging of adult humans

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2016-11-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 塩谷, 清司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3048

論文審査の結果の要旨

本邦では死因の探索が不十分であると指摘されており、病理解剖率のさらなる減少を含めて、各方面での対策の必要性が叫ばれて久しい。死後画像検索は CT や MRI などの機器を用いて、非侵襲的に遺体を検索する方法である。申請者は、この分野のパイオニアの一人として、今回、MRI による死後画像検索の基礎データを呈示した。肝臓に重大な病変のない、行政解剖例 22 例について、左葉と右葉の T1, T2 画像、直腸温、死後時間などを比較検討し、まず、基礎的知見として、T1 と T2 の値を肝臓の両葉について得た。T1, T2 値左右ともに死後時間との線形な関係性はなかったが、T2 値では直腸温との関連が見いだされた。また、肝左葉外側の T1 値は生体の T1 値より低かった。

MRI による検索は CT でわかりにくい、心臓の虚血性変化を検出しやすいといった特性が申請者らの経験上も知られているが、そもそもこの方法による検出力は、脂肪量、水分量、金属量、温度、pH などの内因性要素と磁場強度、撮像方法などの外因性要素によって決まると考察した。今回の基礎データをもとに、個々の病変の同定や解釈が格段に進歩すると考えられた。本研究は、法医学分野、医療の quality control、社会的意義などに加え、MRI による死後画像検索については世界の先端的な科学的考察がされており、これらの基礎的知見を基準として、さらに多彩な病変についての研究も進捗すると思われた。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 梶村 春彦

副査 中村 和正

副査 杉本 健